



高円宮牌 2013ホッケー日本リーグ【女子】 最終節 最終日

開催日時 5 月 26 日 (日) 会場 日光市ホッケー場 天候 晴れ

【全試合結果】

第1試合 9:30	立命館大学ホリーズ	4	$\begin{pmatrix} 3 & - & 0 \\ 1 & - & 1 \end{pmatrix}$	1	天理大学ベアーズ
第2試合 11:10	東海学院大学	1	$\begin{pmatrix} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 3 \end{pmatrix}$	3	山梨学院 CROWNING GLORIES
第3試合 12:50	グラクソ・スミスクライン	5	$\begin{pmatrix} 2 & - & 0 \\ 3 & - & 1 \end{pmatrix}$	1	南都銀行SHOOTING STARS
第4試合 14:30	ソニーHC BRAVIA Ladies	4	$\begin{pmatrix} 2 & - & 0 \\ 2 & - & 1 \end{pmatrix}$	1	コカ・コーラウエストレッドスパークス

第1試合

立命館大学ホリーズ 4 $\begin{pmatrix} 3 - 0 \\ 1 - 1 \end{pmatrix}$ 1 天理大学ベアーズ

勝点 12
4 勝 0 分 10 敗

勝点 1
0 勝 1 分 13 敗

<得点>

立命館大 : 24分佐々木、30分坂井、33分坂井、45分坂井
天理大学 : 63分江村

<戦評>

最終節最終日第1試合、立命館大学ホリーズ対天理大学ベアーズの試合は、天理大学のセンターパスにより開始された。立命館大は、優位に試合を運ぶが決定的なチャンスをつくれない。一方の天理大学は、なかなか相手陣内へ攻め込むことができず、こう着状態が続く。均衡を破ったのは、立命館大。立て続けにPCを取り、24分#13佐々木がキーパー前でタッチシュートを決め先制する。その後も攻撃の手を緩めない立命館大は、30分、中央からの打ち込みを#7坂井がリバースシュートで決める。直後の33分にも#7坂井がシュートを決め3点目とした。そのまま3-0で前半を折り返した。後半に入り、天理大学は、再三にわたり攻撃を仕掛けるが、得点することができない。対する立命館大は、相手のドリブルカットからパスをつなぎ、45分#7坂井が4点目をたたき込み、ハットトリックを達成する。天理大学も必死に食い下がり、63分、破線中央からのパスを受け、#26江村が鮮やかなリバースシュートを決め1点を返すも、追加点を奪うことができず、4-1で立命館大が勝利した。

テクニカルオフィサー	市村 美幸	アンパイア	根岸 郁美
ジャッジ	星 めぐみ、鈴木 明美		成田 健一

第2試合

東海学院大学 1 $\begin{pmatrix} 0 - 0 \\ 1 - 3 \end{pmatrix}$ 3 山梨学院 CROWNING GLORIES

勝点 12
4 勝 0 分 10 敗

勝点 13
4 勝 1 分 9 敗

<得点>

東海学院 : 47分義浦
山梨学院 : 37分西永、44分浦島、63分五島

<戦評>

最終節第2試合、東海学院大学対山梨学院 CROWNING GLORIESの試合は、山梨学院のセンターパスにより開始された。両チームとも序盤から激しい攻防を繰り広げ、8分に山梨学院がPCを取得するも、東海学院GKのファインセーブにより得点をすることができなかった。両チームともチャンスはあるものの、得点につなげることができず、0-0のまま前半を折り返す。後半は、東海学院のセンターパスにより開始された。開始早々、山梨学院が攻撃を仕掛け、37分、東海学院GKのはじいたボールを山梨学院#15西永が落ち着いて処理し、ヒットシュートを決め先制した。さらに44分、ゴール前の混戦から#9浦島がドルブルで切り込み、追加点をあげ2-0とした。得点をあげた東海学院は、47分にPCを取得し、これを#14吉原のヒットパスに#4義浦がタッチシュートを決め2-1とした。その後も激しい攻防の中、63分、センターリングからのこぼれ球を山梨学院#10五島が押し込み3-1と点差を広げた。追加点がほしい東海学院は、チャンスをつくるも得点に結びつかず、3-1で山梨学院が勝利した。

テクニカルオフィサー	関根 由美子	アンパイア	我妻 順子
ジャッジ	若林 良枝、柏木 和夫		木下 英貴

第3試合

ホッケー日本リーグ機構

グラクソ・スミスクライン 5 $\begin{pmatrix} 2 - 0 \\ 3 - 1 \end{pmatrix}$ 1 南都銀行SHOOTING STARS

勝点 25
8 勝 1 分 5 敗

勝点 25
8 勝 1 分 5 敗

<得点>

グラクソ : 24分片峯、32分柴田、38分中畝地、45分オウンゴール、57分片峯
南都銀行 : 66分小森

<戦評>

南都銀行SHOOTING STARSのセンターパスにより試合が開始された。開始早々、南都銀行はPCを取るが、惜しくもグラクソ・スミスクラインGKに阻止される。一方、グラクソも11分、21分にPCを取るが、得点には至らなかった。試合が動いたのは25分、グラクソがPCを取り、#2平山のスイープパスに#8片峯がタッチシュートを決め1-0となった。続く32分には、ゴール前に打ち込んだこぼれ球を#11柴田が押し込み2点目をあげ、前半を2-0で折り返した。
後半、勢いに乗るグラクソは、38分、#10若柳のレフトからのセンターリングに#6中畝地がタッチシュートを決め3点目をあげた。その後、南都銀行も7分に#10大塚のシュートやPCのチャンスもあったが、グラクソGK#18大家の好セーブに阻まれ、得点することができない。逆に、グラクソは45分、オウンゴールで1点を追加する。さらに、57分にはPCを取り、#8片峯がタッチシュートを決め、5-0とした。点数のほしい南都銀行も、終盤果敢に攻め、66分に1点を返すも、5-1でグラクソが勝利した。

テクニカルオフィサー	市村 美幸	アンパイア	山田 恵美
ジャッジ	鈴木 明美、星 めぐみ		成田 健一

第4試合

ソニーHC BRAVIA Ladies 4 $\begin{pmatrix} 2 - 0 \\ 2 - 1 \end{pmatrix}$ 1 コカ・コーラウエストレッドスパークス

勝点 40
13 勝 1 分 0 敗

勝点 37
12 勝 1 分 1 敗

<得点>

SONY : 21分金、22分及川、46分佐藤、66分金
CCWR : 60分駒澤

<戦評>

勝点37同士で首位を並走する両チームの優勝をかけた最終節最終戦は、ソニーHC BRAVIA Ladiesのセンターパスで開始した。立ち上がりから両チームともスピードのある攻守の切り替えがめまぐるしい展開となった。コカ・コーラウエストレッドスパークスは、11分から続けて3本のPCを得るが、SONYの堅い守備で得点することができない。逆に、SONYは、21分#9金のサークル内のパスが相手DFのミスを誘い、そのままゴールインし先制する。直後の22分にもPCから#3及川がタッチシュートを決め、2-0とした。その後もSONYのペースで試合は進むが、得点には至らない。反撃したいCCWRは、終了間際に相手DFのインターフェアでPCを得るが、ゴール枠をとらえきれず、2-0のまま前半を折り返した。
後半に入ると、CCWRは攻撃に出て、立ち上がり3本のPCを得たが、得点できない。SONYは、逆に11分、自陣から相手のパスをカットし、中盤をつないで左からの#7徳島のパスに#11佐藤が合わせ、追加点をあげた。反撃の足掛かりをつかみたいCCWRは、25分#11駒澤が右からのこぼれ球をリバースシュートし2点差としたが、反撃もここまで。SONYは、逆に相手のパスミスから得たPCを#9金が決め、勝敗を決定づけた。SONYは、4-1で追いつがるCCWRを振り切り、3年ぶり6回目の優勝を飾った。

テクニカルオフィサー	関根 由美子	アンパイア	相馬 知恵子
ジャッジ	柏木 和夫、若林 良枝		安岡 裕美子